



覚えておきたい応急救護

覚えておきたい応急手当のポイント

出血

- 出血している部分にガーゼやタオルを当て、その上から手や包帯で強く圧迫します。
- 傷口は心臓より高い位置にします。
- ※感染予防のため、ビニール手袋やビニール袋を使用し、血液が付着しないようにします。



骨折

- 折れた部分に添え木（副木）を当てて固定します。
- 適当な添え木がなければ、板、雑誌、傘、段ボールなど、身近にあるもので代用します。



やけど

- 流水で10分～30分ほど冷やします（患部に直接強い水圧がかからないように注意）。
- 衣服の上からやけどした場合は、無理に脱がさずそのまま冷やします。
- 水疱（水ぶくれ）は破らない。
- 冷やした後は、清潔なガーゼやタオルなどで保護します。



ねんざ

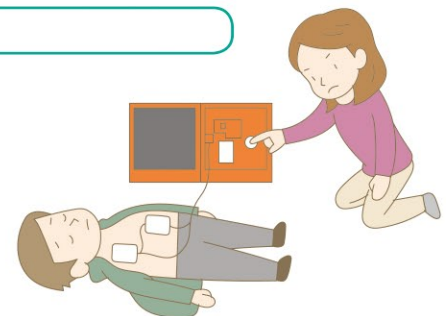
- 患部を冷やします。
- 足首などの場合は、靴を履いたまま、上から三角巾や布で固定します。



心肺蘇生とAED ※成人の場合

倒れている人を見つけたら

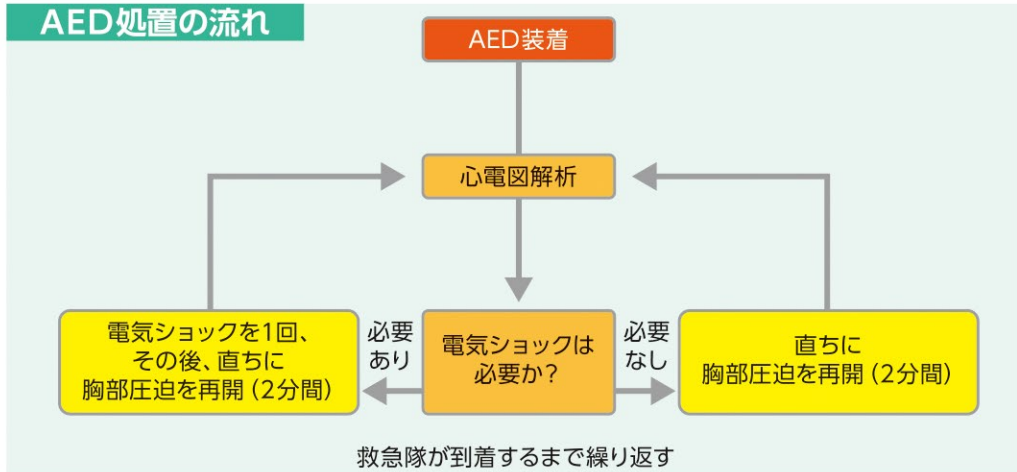
- 1 周囲の安全を確認したうえで、肩を軽くたたき、声を掛けて、返事があるか、手足が動くかなど反応を確かめます。
 - 2 反応がなければ、大声で「誰か来てください!」と近くの人に協力を求め、119番通報とAEDの手配を頼みます。
 - 3 胸とお腹の動きを見て、普段通りの呼吸があるか確認し、なければ胸骨圧迫を行います。この時、傷病者がマスクをしていなければ、胸骨圧迫の前にマスクやハンカチなどで傷病者の鼻と口を覆います。
胸の中央に両手を重ね、胸が約5cm沈み込む程度の強さで圧迫し、1分間に100回～120回のテンポで繰り返します（成人に限る）。
- ※訓練を積んで技術がある場合に限り、感染症予防に注意しながら、人工呼吸を実施します。



AEDが到着したら

- 1 電源を入れて、音声メッセージに従ってパッドを装着します。
- 2 解析の結果、電気ショックが必要と判断されたら、指示に従いボタンを押します（傷病者から離れること）。
- 3 指示に従い、胸骨圧迫を再開します。

AED処置の流れ



オートショックAED

上記のステッカーが貼付されているAEDは、ショックボタンがなく自動的に電気ショックが行われます。

救命講習を受けよう

町や小田原市消防本部では、年に数回の救命講習を行っています。実際に詳しく学びたいという方は、ぜひ、受講してください。講習の日程は、広報やまきたや小田原市消防本部ホームページをご覧ください。

また、以前に救命講習を受講されたことがある方も、救命技能を忘れることなく維持向上させるために、2～3年間隔で定期的に受講されることをお勧めしています。